

**◆試験日程（予定）**

申込期間	令和3年9月上旬 ～ 10月上旬		
試験日	令和4年2月上旬	合格発表日	未発表（例年3月中旬）

**◆出題基準****(1) 出題基準の基本的性格**

出題基準は、試験委員が試験問題を作成するために用いる基準であることから、次のような基本的性格を有する。

- ア 出題基準は、あくまでも標準的な出題範囲の例示であって、出題範囲を厳密に限定するものではなく、また、作問方法や表現等を拘束するものではない。
- イ 出題基準公表後の法改正による制度の重大な変更等、出題基準にない事項であっても、社会福祉士として習得すべき事項については、出題することができる。
- ウ 関係学会等で学説として定まっていなかったものや、論議が分かれているものについては、その旨を配慮した出題を行なう。

**(2) 大・中・小項目の位置付けと関係**

- ア 大項目は、中項目を束ねる見出しであり、科目全体の範囲を示すものである。
- イ 中項目は、試験の出題内容となる事項であり、試験問題はこの範囲から出題されることとなる。なお、中項目は、出題基準として、試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、学問的な分類体系とは必ずしも一致しない。
- ウ 小項目は、中項目に関する事項をわかり易くするために例示した事項である。
- エ 出題は、この出題基準に盛り込まれた事項に限定されるものではなく、法律、政省令等に規定されている事項、厚生労働白書などの公刊物に記載されている事項などからも出題される。

**◆合格基準**

次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

- 1 問題の総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者。
- 2 1を満たした者のうち18科目群（ただし、(注意2)に該当する者にあっては7科目群。）すべてにおいて得点があった者。
  - [1] 人体の構造と機能及び疾病 （7問）
  - [2] 心理学理論と心理的支援 （7問）
  - [3] 社会理論と社会システム （7問）
  - [4] 現代社会と福祉 （10問）
  - [5] 地域福祉の理論と方法 （10問）
  - [6] 福祉行財政と福祉計画 （7問）

- [7] 社会保障 (7問)
- [8] 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (7問)
- [9] 低所得者に対する支援と生活保護制度 (7問)
- [10] 保健医療サービス (7問)
- [11] 権利擁護と成年後見制度 (7問)
- [12] 社会調査の基礎 (7問)
- [13] 相談援助の基盤と専門職 (7問)
- [14] 相談援助の理論と方法 (21問)
- [15] 福祉サービスの組織と経営 (7問)
- [16] 高齢者に対する支援と介護保険制度 (10問)
- [17] 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 (7問)
- [18] 就労支援サービス、更生保護制度 (8問)

(注意1) 配点は、1問1点の150点満点である。

(注意2) 社会福祉士及び介護福祉士法施行規則第5条の2の規定による試験科目の一部免除を受けた受験者にとっては、配点は、1問1点の67点満点である。

(参考) 出題基準に関連する事項

試験の方法

(1) 試験は、筆記の方法により行なう。

なお、障害がある者等については、その申請により点字問題、拡大文字問題、チェック解答用紙等による試験を行なうほか、試験時間の延長等必要な配慮を行なう。

(2) 出題形式は五肢択一を基本とする多肢選択形式とし、出題数は150問、総試験時間数は240分とする。

◆これまでの試験結果

区分	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回
受験者数(人)	45,849	43,937	41,639	39,629	35,287
合格者数(人)	11,828	13,288	12,456	11,612	10,333
合格率(%)	25.8	30.2	29.9	29.3	29.3
合格点(点)	86	99	89	88	93

◆第33回・新卒の試験結果

区分	全国	北星学園大学
受験者数(人)	8,153	65
合格者数(人)	4,137	31
合格率(%)	50.7	47.7

※福祉系大学等ルート〔受験者10人以上〕による値

## ◆第33回試験・講評

午前科目について、「現代社会と福祉」では「人間開発報告書」や「政策評価法」など馴染みの薄い分野の問題や「権利擁護と成年後見制度」で財産権や契約といった判例や実例を取り上げた問題にやや難易度の高さを感じますが、一方で「社会理論と社会システム」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」については近年出題の多い分野からの問題が多く、難易度の差が大きい印象を受けました。

午後科目については、「福祉サービスの組織と経営」で経営論や財務管理といった多くの受験生が苦手とする分野からの出題や、「高齢者に対する支援と介護保険制度」での「ロボット技術の介護利用における重点分野」といった新しい分野からの出題は難しく感じられたとともに、「相談援助の理論と方法」では、単なる援助技法ではなく「エコシステムの視点に基づく対応」といった、知識ではなく理論に基づいた対応方法や応用力が必要な問題も何問か見られました。

全体的には白書や報告書からの出題が多く見られ、近年の福祉を取り巻く社会情勢に対する幅広い理解が求められる試験になっています。

第33回試験では合格点が90点を超え、93点以上得点できた方が合格となりました。新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の最中に実施され、かつてない緊張感の中での受験を強いられたにもかかわらず、例年よりも高い合格点であるということは、それだけ受験者の「合格に対する意識の高さ」が窺えます。これまでは「本番で90点以上を取れたら安心」と言われており、第30回は例外と考えられていましたが、やはりこれからは「100点以上を目指す」勉強が必要になると考えられます。